

# 静岡県公立高等学校初任者研修における校内研修「その他の研修」の在り方

## — 校内研修とセンター研修の効果的な往還に向けて —

研修課 長期研修員 木内 亮

### 1 主題設定の理由

近年、学校を取り巻く環境は大きく変化している。平成27年12月21日の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」においては、「教員の経験年数の均衡が顕著に崩れ始め、かつてのように先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承をうまく図ることのできない状況があり、継続的な研修を充実させていくための環境整備を図るなど、早急な対策が必要である。」と指摘している<sup>1</sup>。また、令和3年1月26日の中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」においては、「教師が、時代の変化に対応して求められる資質・能力を身に付けるためには、個々の教師が養成段階に身に付けた知識・技能だけで教職生涯を過ごすのではなく、求められる知識・技能が変わっていくことを意識して、継続的に新しい知識・技能を学び続けていくことが必要である。」と指摘している<sup>2</sup>。

若手教員は、授業実践、分掌業務、学級経営、部活動指導、保護者や同僚との人間関係など、実に多くの悩みを抱えている。一方で、筆者の過去を振り返ると、周囲の先輩教員も多忙であることから、相談することや助言を得ることを遠慮していた。静岡県総合教育センター（以下「センター」という。）の「教員の資質能力の向上のための研修体系開発に関する研究」では、採用10年程度までの教員について、力量向上を実感した際の主な事柄として、学校内の優れた人物との出会い及び仕事上での実践の経験等を挙げている<sup>3</sup>。若手教員は独力で一人前になるのではなく、同僚と支え合いながら乗り越える所属校での実践の経験一つ一つが、成長の原動力となるのである。そしてその実践の支えとなるものの一つが、組織的、体系的に実施される校内研修である。

以上のように、時代の変化に対応して教員も成長していくことが求められる今、限られた時間の中で最大限の成果を得る校内研修が必要とされている。特に初任者は、大きな不安や課題を抱えながら1年目から他の教員と同様に授業や生徒指導に臨まなければならない。そのような初任者にとって、学校で多くの時間をかけて取り組む校内研修は、教員としての土台を固めると同時にその後の職能成長を支える重要な経験となる。

静岡県公立高等学校初任者研修（以下「初任研」という。）における校内研修は、静岡県公立高等学校初任者研修実施要領（静岡県教育委員会、2019）により年間300時間以上実施することが定められている。校内研修は「定期報告」、「チーム研修」、「その他の研修」の三つに分類され、特に「その他の研修」は校内研修の大部分を占めており、研修内容や実施時間数については初任者及び所属校の裁量によるところが大きい。そこで「その他の研修」の分析を通じて、より効果的な校内研修の在り方を検証することが必要と考

え、主題を設定した。

## 2 研究の目的

静岡県教育委員会が策定する静岡県教員研修計画では、研修を策定する上での考え方が示されている。その中で、経験段階別研修について、「OJTを中心とした校内研修の充実とともに、校外研修の精選を図る」こと及び「校内研修と校外研修を関連付けることにより、一層効果的、効率的に教員の学びを支援する」ことが挙げられている<sup>4</sup>。

そこで本研究では、初任研における校内研修「その他の研修」の実施実績の集計分析及び校外研修「センター研修」との関連性の分析を基に、両研修の効果的な往還のための「その他の研修」の実施方法を提案することを目指す。

## 3 研究の方法

令和元年度初任研修了者118名を分析対象者として、以下の手順で研究を行う。

- (1) 「その他の研修」の実施実態の集計と分析を行い、1年間の“平均研修モデル”を作成する。
- (2) 「センター研修」との往還の視点から「その他の研修」について次の分析を行う。
  - ・「その他の研修」に取り組む期間
  - ・年度当初の「その他の研修」の取り組み方
  - ・「その他の研修」で取り組む研修の内容
- (3) (2)の分析を基に“平均研修モデル”に修正を加え、“その他の研修年間計画シート”を作成する。

## 4 研究の内容

### (1) 校内研修「その他の研修」の実施実態の集計と分析

令和元年度初任者研修実施報告書（以下「報告書」という。）から、「その他の研修」について集計を行い、その実施実態を分析した。

#### ア 集計の方法

静岡県教員育成指標（静岡県教育委員会、2017）には、教員に求められる資質能力として教育的素養、総合的人間力、授業力、生徒指導力、教育業務遂行力、組織運営力の六つが規定されている。そして報告書には、初任者が取り組んだ各研修が、これらの資質能力のどれを重視した研修であったか記載されている（別表1）。そこで、「その他の研修」で実施された各研修について、重視する資質能力、研修内容、実施した月、実施時間数の四つを集計項目として設定した。

#### (ア) 研修内容の分類

研修内容については、静岡県教員育成指標を参考に表1のとおり分類して集計した。また、資質能力のうち教育的素養及び総合的人間力については、教育活動全般に関わるものであるため、同一の分類として合算して集計した。

#### (4) 資質能力別の実施時間数のカウント

令和元年度静岡県公立高等学校初任者研修年間研修計画（静岡県教育委員会、2019、以下「研修計画」という。）では、報告書における各研修の資質能力の表記方法には「○」と「◎」の二通りがあり、重視する資質能力を「○」、特に重視する資質能力を「◎」とすることが規定されている。なお、各研修が重視する資質能力は、各学校の判断による。今回の集計においては、「◎」を優先して資質能力別の実施時間数をカウントするものとした。「◎」が複数ある場合は、実施時間数を「◎」の数で分割して各資質能力にカウントした。「◎」がなく「○」のみ付されている場合も同様に、実施時間数を「○」の数で分割して各資質能力にカウントした。

表1 「その他の研修」の分類

資質能力	分類							
	研修内容の例							
教育的素養・総合的人間力	講話等 講話 オリエンテーション 業務の理解	振り返り 学期の振り返り 研修のまとめ 次年度への課題	授業 研究授業 授業見学 指導技術	特別活動 学校行事 生徒会活動 ホームルーム活動 ボランティア活動	生徒指導 生徒指導 部活動指導 キャリア教育 特別支援教育	地域・保護者 PTA関連 オープンスクール 保護者面談	その他 校内研修 危機管理 事務処理	
授業力	準備 指導案の作成 指導計画 授業の準備	授業実践 研究授業	振り返り 反省 分析 振り返り	改善 指導の工夫 ICT活用 アクティブ・ラーニング	見学 授業の見学 他教科の見学 他校種の見学	評価等 評価方法 テスト作成 成績処理	個に応じた指導 成績不振者指導 進学補講 合理的配慮	その他 教育課程 シラバスの作成
生徒指導力	生徒指導の基礎 生徒指導 生徒理解 人権教育 道徳教育	特別活動等 学校行事 生徒会活動 朝読書 ボランティア活動	部活動 部活動指導 合宿・遠征	HR経営 HR集団の指導 生徒面談 保護者対応	キャリア教育 就職指導 進路指導 インターンシップ	特別支援教育等 特別支援教育 教育相談	授業 研究授業 授業見学 指導技術 振り返り・改善	その他 事務処理 振り返り AED講習
教育業務遂行力	事務処理等 文書の扱い方 成績処理システム 生徒指導要録 会計処理	管理 危機管理 衛生管理 情報管理 AED講習	学校運営 学校教育目標 学校評議員制度 分掌業務 高校入試	個に応じた指導 特別支援教育 合理的配慮 進路指導 カウンセリング	教育活動実践 学校行事 人権教育 教育の国際化 主権者教育	ICT等 ICT活用 教育環境整備 Classi	地域・保護者 PTA オープンスクール 保護者面談 地域ボランティア	その他 講話 授業関連 生徒指導理解
組織運営力	学校組織の理解 学校教育目標 教育課程 年間指導計画 分掌理解	業務の理解 学級事務 会計処理等 勤務・サービス 情報管理	地域・保護者 オープンスクール PTA総会 学級懇談会 保護者対応	指導実践 学校行事 生徒会活動 ホームルーム活動 進路指導	人材育成 振り返り 校内研修 管理職面談	その他 授業 試験作成		

#### イ 集計結果

各月の平均実施時間数について、資質能力の内訳を集計した結果を図1に示す。また、各資質能力について、研修内容の内訳を集計した結果を別図1～5に示す。なお、別図1～5は、各月の平均実施時間数に対する各研修内容の割合を、100%積み上げ帯グラフとして表している。

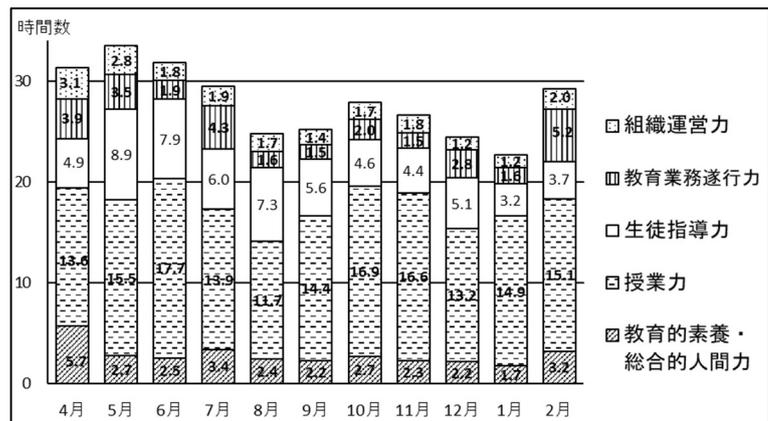


図1 平均実施時間数(資質能力の内訳)

#### ウ 分析

1年間の「その他の研修」の平均実施時間数は306.9時間であった。図1に示すよ

うに、年度初めの4～6月は月間30時間以上の研修に取り組み、その後は緩やかな減少傾向が続いているが、2月は29.2時間と急増しており、研修の総括に充てられていると考えられる。資質能力の内訳で見ると、最も大きな割合を占めていたのは授業力、次いで生徒指導力であった。初任者であっても、他の教員と同様に授業を行い、特別活動等の場面で生徒指導に臨む必要があることから、これらの資質能力は初任者にとって特に重点的に取り組む必要があると考えられる。

以下、各資質能力の集計結果から更に詳しく分析し、「その他の研修」の実施実態の特徴として、各月の重点項目及び主な研修の内容をまとめた。

### (7) 教育的素養及び総合的人間力（別図1）

教育的素養及び総合的人間力は、静岡県教員育成指標において、教職人生を通して維持・向上を図って

表2 「教育的素養及び総合的人間力」に関する研修の特徴

実施月	重点項目	主な研修の内容
4	講話等	学校組織や業務の理解、事務処理等の説明
6	授業	研究授業等の実施
7, 12, 2	振り返り	学期末及び年度末の振り返り
8	地域・保護者生徒指導	オープンスクールや部活動指導
6, 10, 11	特別活動	文化祭や体育祭等の学校行事

いくこととされている資質能力である。集計結果には、4月の各種講話や新任者オリエンテーションに始まり、学校行事や長期休暇中の研修、学期末の振り返りなど、初任者が取り組む1年間の校内研修の流れが示されており、あらゆる教育活動に関わる資質能力であることがよく表れている(表2)。平均実施時間数については、月間2.8時間、年間31.2時間となっており、4月は5.8時間と突出している。

### (4) 授業力（別図2）

研修計画では、授業力に関する「その他の研修」は、毎月10時間程度、年間100時間以上確保すること

表3 「授業力」に関する研修の特徴

実施月	重点項目	主な研修の内容
4	そのほか	教育課程、学習指導要領、シラバスの理解等
6, 10, 11	授業実践、振り返り	研究授業等の実践、授業の振り返り
5, 7, 10, 12	評価	定期試験の作成と評価方法の理解
7, 8, 9, 12	個に応じた指導	成績不振者への指導、就職に向けた指導、進学に向けた指導等
8	改善	授業の工夫、教材の研究、ICTの活用準備

が規定されている。今回集計した令和元年度初任研修了者の平均実施時間数は月間14.9時間、年間163.5時間であり、授業力に関する研修に重点的に取り組んでいる。また、各学期中の振り返り、授業改善、授業見学の実施時間数に大きな変動は見られず、継続して授業力向上に向けた研修に取り組んでいることが分かる。定期試験や長期休業など、時期的要因と考えられる特徴をまとめ、表3に示す。

### (5) 生徒指導力（別図3）

平均実施時間数については、月間5.6時間、年間61.7時間であった。1

表4 「生徒指導力」に関する研修の特徴

実施月	重点項目	主な研修の内容
4	生徒指導の基礎	生徒指導に関する基本的な知識・技能の習得
5, 6, 10, 11	特別活動等	文化祭や体育祭等の学校行事
7, 8, 9, 1	キャリア教育	就職に向けた指導、インターンシップ、進学に向けた指導等
8	部活動	部活動の指導実践、遠征や合宿等への参加

年間の流れでは、年度当初は生徒指導に関する知識の習得に関する研修が多く、その後徐々に特別活動や部活動等の実践的な指導に取り組む時間が増加している。特別活動の中では、特に学校行事が生徒指導の実践の機会となっている。キャリア教育については、初任者が所属する学校間で差が見られるが、就職に向けた指導及び進学に向けた指導に重点的に取り組んでいる。また、ホームルーム経営に関する研修には、年間を通じて継続して取り組んでいる。表4に特徴をまとめて示す。

### (イ) 教育業務遂行力 (別図4)

平均実施時間数  
については、月間  
2.7時間、年間  
29.7時間であっ  
た。年間を通して  
実施時間数の変動

表5 「教育業務遂行力」に関する研修の特徴

実施月	重点項目	主な研修の内容
7	事務処理等	評価方法、成績処理システム等
8	地域・保護者	オープンスクール
8, 9, 10	個に応じた指導	インターンシップ、就職関連指導
8, 9	管理	休業中の健康管理、危機管理
1, 2	学校運営	高校入試
2	事務処理等	年度末の事務処理、通知表作成等

が大きく見られるのが特徴で、特に7月が4.3時間、2月が5.2時間と突出して多かった。その要因としては、7月は1学期末の評価に関する研修の必要性が高まり、2月は年度末の事務処理に関する研修が必要となることが挙げられる(表5)。なお、表1で「そのほか」に分類される研修には、管理職講話や授業関連の研修などが含まれるため、4月には月間の約30%を占め、その後も年間を通じて一定の割合を維持している。

### (ロ) 組織運営力 (別図5)

平均実施時間数  
は月間1.9時間、  
年間20.9時間であ  
り、研修の総実施  
時間数に対する資  
質能力の割合とし

表6 「組織運営力」に関する研修の特徴

実施月	重点項目	主な研修の内容
4	学校組織の理解	学校教育目標の理解、分掌業務の理解等
8	地域・保護者	オープンスクール
6, 10, 11	指導実践	学校行事等の理解と実践
7, 12, 2	人材育成	学期末の振り返り、管理職面談等
1, 2	学校組織の理解	高校入試

ては、組織運営力が最も少ない結果となった。研修内容の分類から見ると、学校全体で取り組む学校行事やオープンスクール、高校入試などが時期的要因として顕著に表れている(表6)。また、「そのほか」に分類される研修は、5、7、10、12月に増加が見られ、定期試験の準備と実施に関わる研修が含まれている。

## (2) 年間の“平均研修モデル”の作成

ここまでの分析により、各月の資質能力別の平均実施時間数(図1)や、研修内容とその実施時期の特徴(別図1～5、表2～6)が明らかとなった。これらの分析を基に、“平均研修モデル”を作成した(別表2)。

なお、“平均研修モデル”の作成にあたっては、別図1～5を用いて、各資質能力に関する研修の中から各月に重点的に実施された研修を抽出し、その実施時間数の平均値を算出した。また、研修全体に対して占める割合の大きかった二つの資質能力(授業力

と生徒指導力)に関する研修について、特に詳しく記載した。

### (3) 「その他の研修」に取り組む期間についての分析

ここからは、センター研修と「その他の研修」の往還の視点から分析を進めた。「その他の研修」の実施実態を集計した結果、授業力及び生徒指導力の占める割合が大きかったことから、これら二つの資質能力に焦点を当てることとした。令和元年度に実施されたセンター研修のうち、本研究で分析の対象としたセンター研修を表7にまとめた。なお、全8回のセンター研修のうち、「その他の研修」の分類(表1)と直接対応していない研修や、授業力及び生徒指導力以外の資質能力に関する研修は除外した。

**表7 分析の対象とした令和元年度センター研修と、それに対応する「その他の研修」**

センター研修		対応するその他の研修	
実施回	研修内容(講義・演習等)	資質能力	分類
第2回 5/24	授業の基礎技術	授業力	準備・授業実践・振り返り 改善・見学・評価等 個に応じた指導・そのほか
	授業改善		
	教科別研修		
第3回 7/26	部活動指導	生徒指導力	部活動
	特別支援教育		特別支援教育
	生徒指導		生徒指導の基礎
	教育相談		教育相談
	生徒指導における課題解決		生徒指導の基礎
第4回 9/12	キャリア教育	生徒指導力	キャリア教育
	特別活動		特別活動等
	教科別研修	授業力	準備・授業実践・振り返り 改善・見学・評価等 個に応じた指導・そのほか
第5回 11/3,4	ホームルーム経営	生徒指導力	HR経営
第6回 11月	教科別研修	授業力	準備・授業実践・振り返り 改善・見学・評価等 個に応じた指導・そのほか
第7回 1/15	教科別研修	授業力	準備・授業実践・振り返り 改善・見学・評価等 個に応じた指導・そのほか
第8回 2/5	教科別研修	授業力	準備・授業実践・振り返り 改善・見学・評価等 個に応じた指導・そのほか

はじめに、「その他の研修」をセンター研修での学びに効果的につなげるためには、「その他の研修」にどの程度の期間をかけて取り組むべきか明らかにするために分析を行った。分析の対象とするセンター研修は、生徒指導力に関する八つの講義とした。授業力に関するセンター研修を分析から除外した理由は、授業力に関する研修は年間を通して継続して行われていることにある。授業力に関するセンター研修は年間で複数回にわたって実施(表7)されており、授業力に関する「その他の研修」は毎月継続して取り組むと定められていることから、各センター研修に影響を及ぼす個別の「その他の研修」を特定することができないからである。

分析の対象者は、センター研修の各講義に対応する「その他の研修」に取り組んだ初任者とし、センター研修の事後アンケートにおける満足度調査の回答によって二つの群に分けた。満足度調査は「1:満足できた」から「4:満足できなかった」の4件法で実施されている。表8に示した回答の内訳のとおり、ほとんどの初任者が満足度1又は2と回答しており、各講義に対し肯定的な受け止め方を行っていることが分かる。そこで、初任者が講義を振り返った際に感じた満足度の度合いは、事後アンケートにおける満足度1と2の回答の差として表れていると考え、今回の分析では満足度1と回答した者をA群、満足度2、3、4と回答した者をB群とした。分析では、センター研修実施前の直近1か月間、2か月間、3か月間、4か月間の各期間において、「その他の研修」の

合計時間数の平均値に対して検定を行い、両群の分布差を評価した。検定はWilcoxonの順位和検定（両側検定）、有意水準は10%及び15%を基準として有意傾向を評価した。

表8 事後アンケート満足度調査の回答の内訳

実施回	センター研修 研修内容(講義・演習等)	満足度 平均	分散	回答数	回答の内訳			
					1	2	3	4
第3回 7/26	部活動指導	1.71	0.46	117	48	56	12	1
	特別支援教育	1.23	0.18	117	90	27	0	0
	生徒指導	1.47	0.33	117	67	45	5	0
	教育相談	1.20	0.18	117	95	21	1	0
	生徒指導における課題解決	1.21	0.20	117	94	21	2	0
第4回 9/12	キャリア教育	1.37	0.27	118	76	40	2	0
	特別活動	1.69	0.55	118	55	47	14	2
第5回 11/3,4	ホームルーム経営	1.21	0.27	117	96	19	0	2

分析の対象としたセンター研修の八つの講義のうち、有意傾向が見られた六つの講義について、分析結果を表9に示す。

表9 「その他の研修」に取り組む期間についての分析結果

実施回	分析対象のセンター研修 研修内容(講義・演習等)	有意傾向が見られた 「その他の研修」に 取り組む期間	A群		B群		ρ値	
			時間数	N	時間数	N		
第3回 7/26	部活動指導	2か月間(6,7月)	3.87	14	6.49	15	0.071	**
	教育相談	2か月間(6,7月)	1.39	19	2.67	3	0.111	*
	生徒指導における課題解決	2か月間(6,7月)	3.40	48	1.88	10	0.052	**
第4回 9/12	キャリア教育	3か月間(7,8,9月)	6.43	47	4.01	24	0.145	*
	特別活動	3か月間(7,8,9月)	4.07	30	6.86	36	0.052	**
第5回 11/3,4	ホームルーム経営	2か月間(9,10月)	3.40	39	8.43	7	0.104	*

\*.10<ρ≤.15、\*\* ρ≤.10

分析の結果、センター研修実施前の直近2か月間あるいは3か月間の「その他の研修」が、センター研修の満足度に関連があることが示された。ただし、第4回センター研修に対する分析では、7、8、9月の3か月間に有意傾向が見られたが、第4回センター研修が9月半ばに実施されていることから、「その他の研修」に取り組む期間は実質的に7、8月の2か月間が中心であると考えられる。

以上より、六つの講義のおおよそ一貫した傾向として、センター研修前の約2か月間の「その他の研修」が最もセンター研修に影響することが分かる。初任者は、この期間にセンター研修を意識して「その他の研修」に取り組むことで、効果的にセンター研修での学びにつなげていくことができると考えられる。

#### (4) 年度当初における「その他の研修」の取り組み方についての分析

「その他の研修」の実施実態の集計と分析から、「その他の研修」の中で最も研修時間の割合が大きい研修は、授業力に関する研修であることが示された。また、「その他の研修」とセンター研修の往還の視点による分析から、センター研修実施前の2か月間の取組が大切であることが示された。授業力に関するセンター研修は第2回（表7、令和元年度は5月24日）で実施されていることから、4、5月の2か月間の「その他の研修」は特に重要な位置付けとなる。4月から教壇に立つ初任者にとっては、授業力の向上は優先度の高い課題であり、年度当初の「その他の研修」は授業の基礎を習得するための大切な研修の機会であると考えられる。

以上のことを踏まえ、年度当初の「その他の研修」の開始にあたり、初任者が授業力に関する研修にどのように取り組むべきか明らかにするため、分析を行った。

分析の対象とするセンター研修は、第2回センター研修で実施された二つの講義『授業の基礎技術』及び『授業改善』とする。分析においては、表1で授業力に分類された「その他の研修」について、4、5月の2か月間の研修実施時間数に応じて初任者を4グループに分け、センター研修の事後アンケートの満足度調査から平均値を算出して比較した。

### ア 資質能力“授業力”に関する「その他の研修」の総時間数

授業力に関する「その他の研修」の総時間数で分析を行い、結果を図2に示す。図2のグラフのとおり、「その他の研修」の総時間数と二つの講義の満足度の平均値には、一貫した傾向は見られなかった。このことから、授業力に関する「その他の研修」の総時間数が、直ちにセンター研修の各講義の満足度に結びつくわけではないことが分かる。

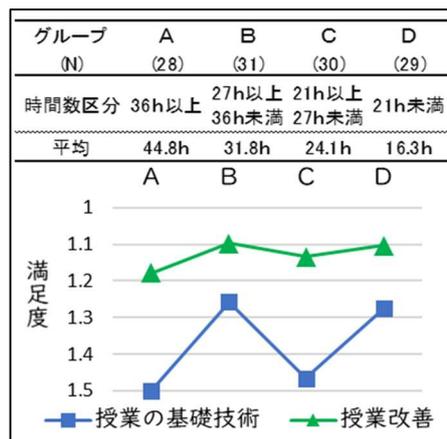


図2 授業力の総時間数と満足度

### イ 【準備、授業実践、振り返り、改善】の合計時間数

次に、授業力に関する「その他の研修」の分類のうち、授業実践を中心としたPDC Aサイクルに相当する【準備、授業実践、振り返り、改善】の四つの分類に着目し、その合計時間数について同様の分析を行った。結果を図3に示す。

図3のグラフのとおり、二つの講義の満足度の平均値には一貫した傾向が表れており、グループFにおいて最もセンター研修の満足度が高くなっている。ここまでの分析と合わせると、初任者にとっては「その他の研修」の時間数の多い少ないではなく、授業実践を中心としたPDC Aサイクルを回すことが大切であると考えられる。グループFの平均から、4、5月の2か月間の【準備、授業実践、振り返り、改善】の合計時間数の目安は17.3時間であり、その内訳は【準備】2時間、【授業実践】2.5時間、【振り返り】3時間、【改善】9.5時間が目安となる。

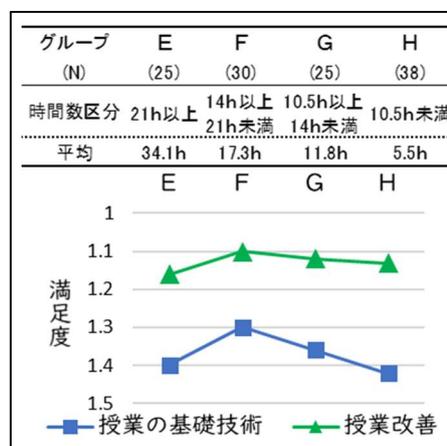


図3 【準備、授業実践、振り返り、改善】の合計時間数と満足度

### ウ 【見学】と【準備、授業実践、振り返り、改善】の時間数の比

ここまでの分析により、初任者にとって4、5月の授業力に関する「その他の研修」は、授業実践を中心としたPDC A（準備、授業実践、振り返り、改善）のサイク

ルが重要であることが示された。ここからは、授業力に関する研修分類の一つである【見学】について分析した。経験の少ない初任者は、他の教員の授業から学ぶ知識や技術が多くあることから、自身の授業実践と同様に【見学】も重要な研修の要素であると考えられる。しかし、年度初めの4、5月は、授業以外にも学校組織や分掌業務の理解、生徒指導の基礎技術など、初任者が取り組むべき校内研修はとても幅広い。そこで、限られた時間の中で、初任者が自分の授業実践と並行して他の教員の授業を見学するにあたり、どの程度の時間を割り当てるべきか分析した。図4に【見学】と【準備、授業実践、振り返り、改善】の時間数について散布図を示す。分析では、図4のとおり【見学】と【準備、授業実践、振り返り、改善】の時間数の比で散布図の領域を4区分し、

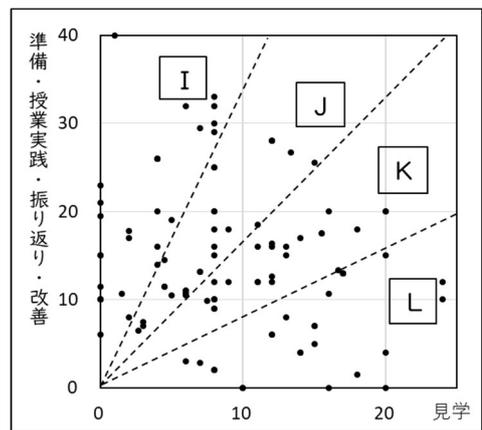


図4 研修の実施時間数の散布図

横軸は【見学】の時間数  
縦軸は【準備、授業実践、振り返り、改善】合計  
\*単位は時間

センター研修の事後アンケートの満足度調査から平均値を算出して比較した。今回の分析で比を用いた理由は、授業見学の意味合いにある。授業見学で大切なことは、単に多くの授業を見て回るのではなく、見て学んだことを自分の実践につなげていくことである。つまり、授業見学とは授業実践を中心としたP D C Aのサイクルをステップアップさせていく一つの手段であると考えられるため、授業見学の時間数のみを分析するのではなく、P D C Aの時間数との比から分析することとした。分析の結果を図5に示す。

図5から分かるように、グループIが最もセンター研修の各講義の満足度が高い。よって、【見学】と【準備、授業実践、振り返り、改善】の時間数の比は、グループIの平均比である1対5.6が目安になると考えられる。そして【準備、授業実践、振り返り、改善】の時間数についての分析結果を踏まえると、4、5月の2か月間は【準備、授業実践、振り返り、改善】の合計17.3時間に対して、【見学】の時間数は約3.1時間が目安になると考えられる。

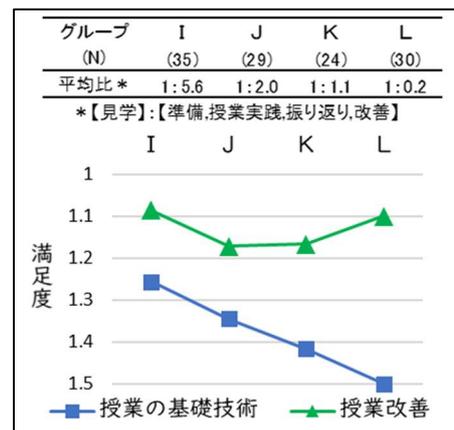


図5 時間数の比と講義の満足度

#### (5) 「その他の研修」の内容についての分析

センター研修の実施後、初任者は事後アンケートとして各講義に対する感想等を自由記述している。これらの記述から、「抱えている不安」、「学びたいこと」、「今後実践したいこと」の三つの項目に関する記述を抽出し、「その他の研修」で取り上げる内容について分析を行った。事後アンケートから抽出された上記の三つの項目に該当する

記述の件数を表10に示す。

表 10 センター研修事後アンケート自由記述の集計

事後アンケートに共通する特徴として、「今後実践したいこと」に該当する記述が多く見られた。その大部分は、「すぐに実行したい」、「明日から取り入れてみたい」など、センター研修で学んだことを所属校で実践していこうとする強い意欲が感じられるものであった。初任者がこれらの実践に取り組み、OJTで経験を重ねていくことが、

実施回	センター研修		抱えている不安	学びたいこと	今後実践したいこと	回答数
	研修内容(講義・演習等)					
第2回 5/24	授業の基礎技術		4	3	30	118
	授業改善		1	0	48	118
	教科別研修		31	2	29	118
第3回 7/26	部活動指導		21	13	18	117
	特別支援教育		3	2	28	117
	生徒指導		1	1	39	117
	教育相談		9	4	26	117
	生徒指導における課題解決		9	0	17	117
第4回 9/12	キャリア教育		1	5	24	118
	特別活動		2	14	19	118
	教科別研修		0	3	36	118
第5回 11/34	ホームルーム経営		15	2	22	117
第6回 11月	教科別研修		4	3	44	112
第7回 1/15	教科別研修		5	2	37	116
第8回 2/5	教科別研修		0	0	13	117

まさにセンター研修との往還という点において重要な部分である。そのためにも、初任者の指導を担当する教員は、センター研修の後に初任者と面談の機会を作り、センター研修の振り返りを行い、その後の所属校での実践を後押しすることが大切であると考えられる。以下に、センター研修との往還の視点から、「その他の研修」に求められる研修内容について分析をまとめた。

## ア 授業力に関する内容

「今後実践したいこと」に関する記述が多かった第2回センター研修の講義『授業改善』について、事後アンケートの回答要約を表11に示す。回答からは、「PD

表 11 事後アンケートの回答要約(授業改善)

授業改善		回答の内容(件数)
抱えている不安	授業全般に関する不安(1)	
学びたいこと	-	
今後実践したいこと	授業の振り返りと授業改善を実践すること(44) (PDCAサイクルの視点や生徒の視点による授業の見直し、 リフレクションの手法の実践、授業目標等の再確認など) 丁寧な言葉遣いや振る舞いに気を配ること(2) 先輩教員に授業を見てもらい助言を得ること(1)	

CAサイクルによる授業の改善」や「リフレクションの手法を取り入れた生徒の視点による授業の見直し」など、授業の振り返りと改善に強い意欲が見られる。したがって、第2回センター研修後の6、7月について、初任者は、自身で行う授業の振り返りに加えて、研究授業後の研究協議会や他の教員による授業参観の機会に初任者と異なる目線からフィードバックを得ることで、より一層、授業改善に生かすことができると考えられる。

年間を通じて実施されている『教科別研修』に対する記述には、学習指導案の作成や授業目標の設定などの基本的事項から、生徒の思考過程や表れに基づく授業展開の模索、他の初任者から刺激を受けたことによる新たな視点の獲得に至るまで、センター研修の回を重ねるごとに成長していく様子が表れている。その一例として、

地理歴史科・公民科の初任者の「今後実践したいこと」について回答要約を表12に示す。「その他の研修」とセンター研修の往還の視点から、『教科別研修』が続いていく

9月以降は、センター研修に向けた課題等の準備及びセンター研修後の振り返りを通じて、初任者の意欲を汲み取りつつ実状に照らして段階的、継続的に授業力向上に向けたサポートをしていくことが必要である。そこで、初任者の教科指導を担当する教員には、初任者とともに目標の設定や省察を行い、臨機応変に「その他の研修」を組み立てていく姿勢が大切であると考えられる。

### イ 生徒指導力に関する内容

「抱えている不安」に該当する記述には、初任者が感じている不安や悩みごとなど、早急なサポートが必要な事例や、次年度を見据えた指導が必要な事例が見受けられた。この項目に関する記述が特に多かった二つの講義『部活動指導』と『ホームルーム経営』について、回答要約を表13に示す。

講義『部活動指導』に対する記述には、経験のない部活動の顧問になったことによる不安が多く挙げられている。専門外である部活動の顧問として指導をしなければならない状況に対し、何ができるのか、どこまで指導できるのか、漠然とした不安が読み取れる。また「学びたいこと」については、具体的な指導法や

保護者対応に加え、部活動を取り巻く課題や他の業務との両立など、今後の部活動の在り方について問題意識を持っていることが読み取れる。初任者にとって、生徒と向き合う授業や部活動指導は4月から猶予なく進めていかなければならず、ゆえに校内研修の早い段階での指導・助言を必要としていると考えられる。

講義『ホームルーム経営』に対する記述には、次年度以降のホームルーム担任に向けた不安が多く挙げられている。そして「今後実践したいこと」では、ホームルーム担任になることを見据えて様々な準備を進めていくことが挙げられている。セン

表 12 事後アンケートの回答要約(教科別研修:地歴・公民)

地歴・公民	
第4回	・指導案の書き方や授業設計など、他の先生の実践を取り入れていくこと ・授業中のワークが授業のねらいに合っているか確認すること
第6回	・マトリクス分析を利用して生徒の変容を見ていくこと ・ジグソー法などの授業展開の手法を自分の授業に取り入れていくこと
第7回	・成果→問い→材料→思考対話の順に学びのデザインシートを作成し、ゴールを意識した授業をすること
第8回	・研修で得た新たな視点を授業改善につなげること

表 13 事後アンケートの回答要約(部活動指導等)

部活動指導	回答の内容(件数)
抱えている不安	経験のない部活動の顧問ができることは何か(19) 正顧問や副顧問の役割分担について(4) 生徒・保護者からの期待や要望への対処法(1)
学びたいこと	部活動指導全般(指導法、事故対応、保護者対応等)(6) 部活動の在り方(部活動ガイドラインや今日の課題)(4) 他の業務との両立や多忙化への対処法(3)
今後実践したいこと	経験のない部活動における生徒指導や技術指導の実践(14) 部活動における環境整備・安全管理・金銭管理等(4)
ホームルーム経営	回答の内容(件数)
抱えている不安	ホームルーム担任になることに対する不安(12) 副担任としてやっておくべきことは何か(1) 現在担任をしているクラスへの不安(1)
学びたいこと	ホームルーム担任の業務について(1) 生徒同士の関係づくりについて(1)
今後実践したいこと	ホームルーム担任に向けた準備を行うこと(16) (目標とするホームルームの姿を描く、保護者対応の理解、生徒指導の基準を持つ、ホームルームのルールづくり等) 先輩教員のホームルームを見学すること(7)

ター研修の講義を受けたことにより、より具体的に担任としての自分をイメージできるようになってきていることが分かる。年度の後半からは、授業や生徒指導に関する校内研修に加え、担任業務に関する指導を取り入れることが必要になると考えられる。

事後アンケートの回答要約を別表3にまとめた。これを参考にして、初任者及び所属校の実状に合わせて「その他の研修」で取り上げる内容を検討し、研修の計画を組み立てていくことで、センター研修との往還が深まるものと期待できる。

#### **(6) センター研修との往還を意識した「その他の研修年間計画シート」の作成**

ここまで、「その他の研修」について、実施実態の集計と分析から“平均研修モデル”を作成し、センター研修との往還の視点から分析を行った。これらを踏まえ、初任者が「その他の研修」を計画する際に活用できる「その他の研修年間計画シート」（別表4）及びその記入例として「その他の研修年間計画シート（例）」（別表5）を作成した。このシートを活用することで、「その他の研修」の計画段階では、初任者が自己の研修の1年間の見通しを持ち、「その他の研修」とセンター研修の往還を意識して研修に臨むことができるようになると考えられる。また、センター研修後の振り返りの機会には、年間計画に修正を加えながら、初任者一人一人が求める研修を適時適切に判断し補うことが可能になると考えられる。それにより、OJTとして所属校で取り組む「その他の研修」が更に充実したものとなり、教員としての資質能力の一層の向上につながるものと期待される。

ただし、「その他の研修年間計画シート（例）」に記載した研修内容や時間数は、令和元年度の初任者について分析した本研究から示された一つの参考例であるため、初任者の実状や学校の特徴に合わせて計画、実施することに留意願いたい。

### **5 研究のまとめ**

本研究では、初任者研修における校内研修「その他の研修」に焦点を当て、校外研修「センター研修」との往還の視点から分析を進め、以下の成果を得た。

- (1) 「その他の研修」の研修内容及び時間数は、所属校の裁量によるところが大きい。そこで、令和元年度の初任者について実施報告書を集計し、“平均研修モデル”として実施実態を明らかにした。
- (2) センター研修の事後アンケートの分析から、「その他の研修」とセンター研修の往還のためのポイントを明らかにした。
  - ・「その他の研修」をセンター研修での学びに効果的につなげるためには、センター研修前のおよそ2か月間の取組が重要である。
  - ・4、5月の授業力に関する「その他の研修」は、授業実践を中心としたPDCAサイクルを重視し、適切に授業見学を行うことが重要である。研修の時間数は、【準備】2時間、【授業実践】2.5時間、【振り返り】3時間、【改善】9.5時間、【見学】3.1時間を目安とする。

- ・「その他の研修」の研修内容に関しては、初任者の意欲を研修に反映させることが重要である。そのために、初任者の指導を担当する教員は、センター研修後に初任者と面談の機会を持ち、センター研修の振り返りを行い、その後の所属校での実践を後押しすることが大切である。

(3) センター研修との往還の視点から、「その他の研修」のポイントを“その他の研修年間計画シート（例）”としてまとめ、初任者及び指導担当教員が研修計画の作成や修正をする上で参考となる資料を示した。

冒頭で触れたように、職場環境の変化により教員間や世代間でのノウハウの伝承が難しくなっている現代においては、初任者の育成は大きな課題であり、初任者研修への期待も大きい。その中でも校内研修「その他の研修」は、年間約300時間という多大な時間を費やすことに加え、所属校でOJTとして研修を積んでいくことに大きな意味がある。一年間の研修の流れを踏まえ、校内研修とセンター研修の効果的な往還の実現に向けて、多くの教員が関わりながら学校全体で初任者を育てていく意識が大切であると考えられる。

今後の課題として、各学校で初任者研修を統括する研修主任や、実際に教科や部活動に関する指導を担当する教員のアンケート調査など、様々な視点から初任者研修の検証を重ねていくことが必要である。

---

## 注

- <sup>1</sup> 中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」

[[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf)] (2021年8月12日取得)

- <sup>2</sup> 中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」』

[[https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf)] (2021年8月12日取得)

- <sup>3</sup> 静岡県総合教育センター「教員の資質能力の向上のための研修体系開発に関する研究」、2020年、4頁。

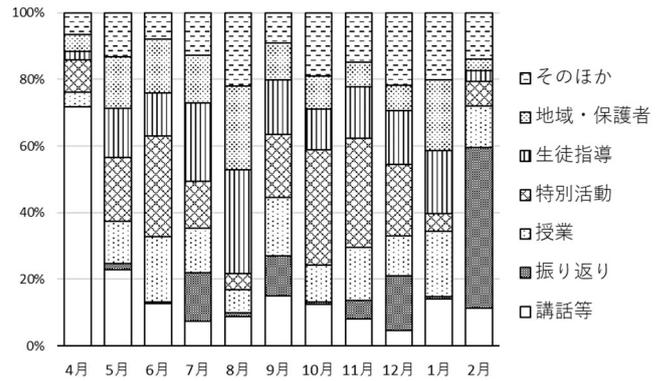
- <sup>4</sup> 静岡県教育委員会「静岡県教員研修計画」、2021年、10頁。

## 参考文献

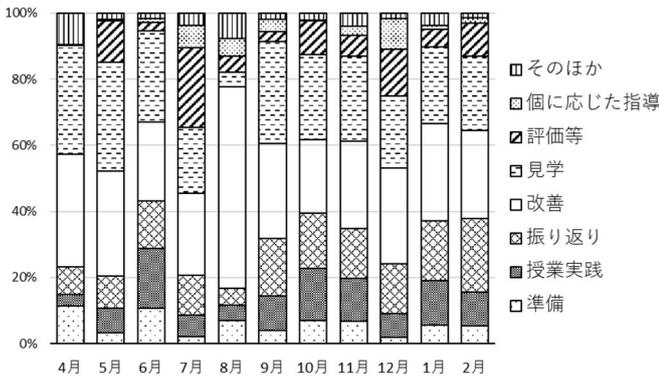
- ・静岡県教育委員会「静岡県教員育成指標」、2017年。
- ・静岡県教育委員会「静岡県公立高等学校初任者研修実施要領」、2019年。
- ・静岡県教育委員会「静岡県公立高等学校初任者研修年間研修計画」、2019年。

別表 1 初任者研修実施報告書の例

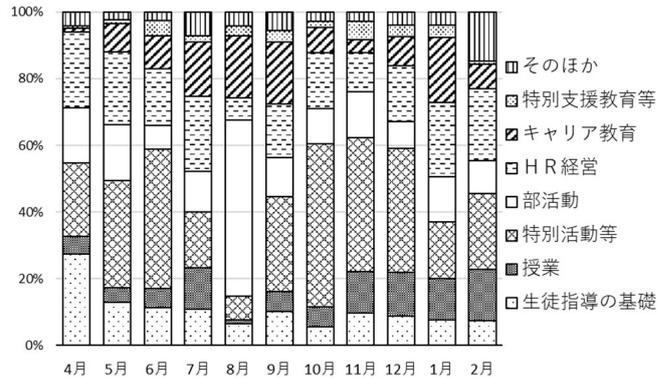
期	月	研修名	回数	時数	日数	研修の内容	資質能力					
							教	総	授	生	業	組
前	4	その他の研修	1			管理職講話	◎	○	○	○	○	○
前	4	その他の研修	1			転任者研修	○	○	○	○	○	○
前	4	その他の研修	2			学校説明会の実施と指導	◎	○		○	○	○
前	4	その他の研修	8			年度当初行事（始業式・入学式）に関する研修	○	○			◎	◎
前	4	その他の研修	2			効果的な進路指導について					◎	○
前	4	その他の研修	1			起家等の文書の取扱い事務について					◎	◎
前	4	その他の研修	1			学年集会の実施と指導について	○	○		◎		
前	4	その他の研修	4			個人面談実施に関する研修	○	○		◎		
前	4	その他の研修	2			教科指導・教材研究の方法				◎	○	
前	4	その他の研修	1			A L T とのチームティーチング方法				◎	○	
前	4	その他の研修	1			授業見学と振り返り				◎	○	
前	4	その他の研修	1			生徒総会の実施と指導について	◎				◎	○
前	4	その他の研修	1			配慮が必要な生徒の対応方法（エビベン使用法）	○	○		○		
前	4	その他の研修	2			部活動引率に関する注意点について	○				◎	



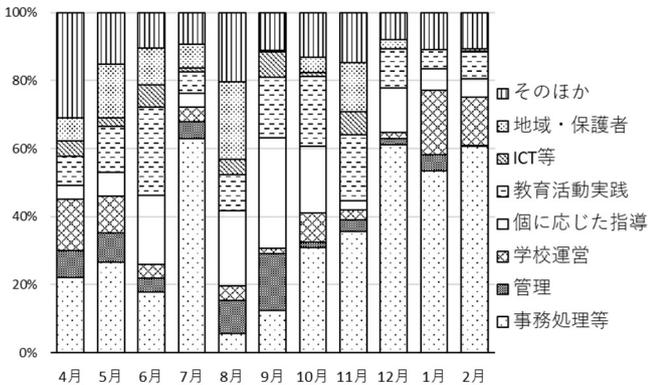
別図 1 「教育的素養及び総合的人間力」に関するその他の研修の内訳



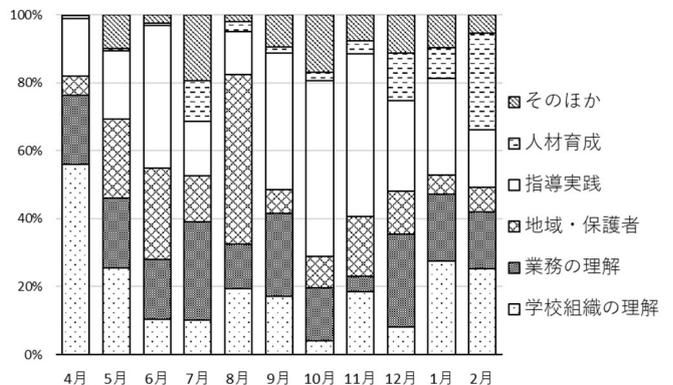
別図 2 「授業力」に関するその他の研修の内訳



別図 3 「生徒指導力」に関するその他の研修の内訳



別図 4 「教育業務遂行力」に関するその他の研修の内訳



別図 5 「組織運営力」に関するその他の研修の内訳

別表2 平均研修モデル

資質能力	4月			5月			6月			7月			8月					
	時間数	研修内容	具体例	時間数	研修内容	具体例	時間数	研修内容	具体例	時間数	研修内容	具体例	時間数	研修内容	具体例			
教育的素養 総合的人間力	4	講話等	管理講話 オンラインセッション	1	講話等	管理講話 分掌課長講話	1	特別活動	文化祭等の学校行事 の企画運営	1	振り返り	学期末の振り返り	1	生徒指導	夏休業者中の生徒指導			
	5	改善	指導の工夫 教材の研究等	5	改善	指導の工夫 教材の研究等	4	改善	指導の工夫 教材の研究等	3	改善	指導の工夫 教材の研究等	3	改善	指導の工夫 教材の研究等			
授業力	5	見学	授業見学	5	見学	授業見学	4	見学	授業見学	3	見学	授業見学	3	見学	授業見学			
	2	準備	指導者の作成等	2	評価等	テスト作成等	3	振り返り	授業の振り返り	2	評価等	評価と成績処理	1	個に応じた指導	成績不振者指導			
生徒指導力	2	生徒指導の基礎	生徒指導の基礎知識	3	特別活動等	文化祭等の企画運営 生徒会の指導	3	特別活動等	文化祭等の企画運営 奉仕活動の指導	1	HR経営	生徒面談の技術 SHRの在り方	4	部活動	部活動の指導法 安全管理等			
	1	特別活動等	特別活動の意義 入学式、対面式	2	HR経営	クラス運営の基礎 学級懇談会の参観	2	HR経営	HR活動の参観 学校行事とHR活動	1	キャリア教育	キャリア教育 オープンキャンパス指導 終業式	1	キャリア教育	進路指導の基本 インターンシップ指導 夏季補習等			
教育業務遂行能力	1	事務処理等	物品等の取扱い 会計処理等	1	事務処理等	物品等の取扱い 会計処理等	1	教育活動実践	学校行事等の実践	3	事務処理等	テストの採点 成績処理システムの運用	1	地域・保護者	オープンスクール 体験入学等の運営			
	2	学校組織の理解	学校教育目標 年間指導計画 分掌の理解等	1	学校組織の理解	学校教育目標 年間指導計画 分掌の理解等	1	指導実践	学校行事等の実践	0.5	業務の理解	調査書の作成 就職関係書類の作成 学期末の振り返り AED講習	0.5	個に応じた指導	就職関係書類の作成 調査書の作成			
組織運営力	2	学校組織の理解	学校教育目標 年間指導計画 分掌の理解等	1	学校組織の理解	学校教育目標 年間指導計画 分掌の理解等	1	指導実践	学校行事等の実践	0.5	業務の理解	調査書の作成 就職関係書類の作成 学期末の振り返り AED講習	1	地域・保護者	オープンスクール 体験入学等の運営			
	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	業務の理解	調査書の作成 就職関係書類の作成 学期末の振り返り AED講習	1	業務の理解	調査書の作成 就職関係書類の作成 学期末の振り返り AED講習			
資質能力	9月			10月			11月			12月			1月			2月		
	時間数	研修内容	具体例	時間数	研修内容	具体例	時間数	研修内容	具体例	時間数	研修内容	具体例	時間数	研修内容	具体例	時間数	研修内容	具体例
教育的素養 総合的人間力	4	改善	指導の工夫 教材の研究等	4	改善	指導の工夫 教材の研究等	1	特別活動	修学旅行の準備 事前指導と事後指導	4	改善	指導の工夫 教材の研究等	4	改善	指導の工夫 教材の研究等	2	振り返り	年度末の振り返り 次年度に向けて
	4	見学	授業見学	4	見学	授業見学	4	見学	授業見学	3	見学	授業見学	4	見学	授業見学	4	改善	指導の工夫 教材の研究等
授業力	3	振り返り	授業の振り返り	3	授業実践	授業の振り返り	3	振り返り	授業の振り返り	2	振り返り	評価と成績処理	2	評価等	評価と成績処理	4	振り返り	授業の振り返り
	2	授業実践	研究授業等	3	振り返り	研究授業等	2	授業実践	研究授業等	2	振り返り	授業の振り返り	2	振り返り	授業実践	2	振り返り	授業の振り返り
生徒指導力	2	特別活動等	防災訓練の準備と実践 始業式、薬学講座等	2	特別活動等	修学旅行の準備 事前指導と事後指導	2	特別活動等	修学旅行の準備 事前指導と事後指導	2	特別活動等	球技大会等の企画運営 文化的行事の指導	1	キャリア教育	進路面談 小論文や面接の指導	1	特別活動等	マラソン大会の運営 文化的行事の指導
	1	キャリア教育	就職に向けた指導 進路ガイダンス等	1	HR経営	HR活動の参観 LHRの運営	1	部活動	安全運営等	1	HR経営	クラス運営と学生運営 生徒指導とHR経営	1	HR経営	担任の心構え 保護者への対応 三者面談への対応	1	HR経営	次年度のHR経営に 向けて
教育業務遂行能力	1	個に応じた指導	就職関係書類の作成 生徒の安全管理 夏季休業中の保健管理	1	教育活動実践	学校行事等の実践	1	事務処理等	テストの採点 成績処理システムの運用	2	事務処理等	テストの採点 成績処理システムの運用	1	事務処理等	生徒指導記録 学校教育目標の具現化 に向けて	3	事務処理等	年度末の事務処理 通知表作成
	0.5	管理	夏季休業中の保健管理	1	教育活動実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	0.5	管理	高校入試業務 卒業式準備
組織運営力	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	高校入試業務 卒業式準備
	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	学校行事等の実践	1	指導実践	高校入試業務 卒業式準備

別表3 事後アンケートの回答要約

授業の基礎技術	回答の内容(件数)
抱えている不安	授業全般に関する不安(4)
学びたいこと	ユニバーサルデザインを意識した授業の具体例について(2) ICTの効果的な活用方法について(1)
今後実践したいこと	得られたアイデア、他の先生の工夫などを実践すること(11) 生徒の特性に合わせて授業を工夫すること(6) ユニバーサルデザインを意識した授業づくりをすること(4)
授業改善	回答の内容(件数)
抱えている不安	授業全般に関する不安(1)
学びたいこと	-
今後実践したいこと	授業の振り返りと授業改善を実践すること(44) (PDCAサイクルの視点や生徒の視点による授業の見直し、 リフレクションの手法の実践、授業目標等の再確認など) 丁寧な言葉遣いや振る舞いに気を配ること(2) 先輩教員に授業を見てもらい助言を得ること(1)
部活動指導	回答の内容(件数)
抱えている不安	経験のない部活動の顧問ができることは何か(19) 正顧問や副顧問の役割分担について(4) 生徒・保護者からの期待や要望への対処法(1)
学びたいこと	部活動指導全般(指導法、事故対応、保護者対応等)(6) 部活動の在り方(部活動ガイドラインや今日の課題)(4) 他の業務との両立や多忙化への対処法(3)
今後実践したいこと	経験のない部活動における生徒指導や技術指導の実践(14) 部活動における環境整備・安全管理・金銭管理等(4)
特別支援教育	回答の内容(件数)
抱えている不安	合理的配慮をどこまでできるのか不安(2) 特別な支援を必要とする生徒への対応方法の不安(1)
学びたいこと	インクルーシブ教育について(1) 学力差のある生徒の同一授業内での対応について(1)
今後実践したいこと	困っている生徒目線で授業づくりをすること(8) 生徒一人ひとりの特性等を踏まえた支援をすること(8) ユニバーサルデザインを意識した授業づくりをすること(5)
生徒指導	回答の内容(件数)
抱えている不安	生徒指導の方法についての不安(1)
学びたいこと	生徒指導提要について(1)
今後実践したいこと	問題行動の背景など多面的、多角的に生徒理解すること(20) 他の先生や保護者と連携して生徒指導を進めること(4) 学校生活のあらゆる場面で成長を促す生徒指導をすること(3)
教育相談	回答の内容(件数)
抱えている不安	生徒・保護者との面談(相談や要望等への対応)(5) 実際に経験した生徒・保護者対応への反省(4)
学びたいこと	生徒・保護者対応の事例(先輩教員の実践等)(3) カウンセリング手法(1)
今後実践したいこと	面談技術の理解と実践(傾聴、積極、繰り返し、明確化等)(15) 面接の大原則(人・時間・場所)を意識すること(4) 他の教員と連携して教育相談の実践をすること(3)
生徒指導における課題解決	回答の内容(件数)
抱えている不安	生徒指導全般の悩みや不安(9) (ホームルーム・教科指導・部活動指導等)
学びたいこと	-
今後実践したいこと	センター研修で得た生徒指導課題の解決策の実行(10) ファシリテーションの技術を実践活用すること(6) 先輩教員への積極的な相談をすること(2)
キャリア教育	回答の内容(件数)
抱えている不安	次年度担任として実践すべきキャリア教育について(1)
学びたいこと	キャリア教育の具体例について(2) 課程や学科によるキャリア教育の違いについて(1) ストレスマネジメントについて(1)
今後実践したいこと	教育活動全体を通してキャリア教育を推進すること(15) キャリア教育で身に付けさせたい能力を整理・理解すること(9)
特別活動	回答の内容(件数)
抱えている不安	次年度担任としての特別活動への取り組み方について(1) 周囲の教員のサポートが欲しい(1)
学びたいこと	話し合い活動や振り返りの方法と工夫できる点について(7) 特別活動の意義について考えを深めること(4) キャリアパスポートに関する知識の習得(2)
今後実践したいこと	担任の立場で特別活動の準備やアイデアづくりをすること(7) 特別活動の計画や振り返りの重要性を理解し取り組むこと(4) 特別活動の3つの柱を意識して取り組むこと(2)
ホームルーム経営	回答の内容(件数)
抱えている不安	ホームルーム担任になることに対する不安(12) 副担任としてやっておくべきことは何か(1) 現在担任をしているクラスへの不安(1)
学びたいこと	ホームルーム担任の業務について(1) 生徒同士の関係づくりについて(1)
今後実践したいこと	ホームルーム担任に向けた準備を行うこと(16) (目標とするホームルームの姿を描く、保護者対応の理解、 生徒指導の基準を持つ、ホームルームのルールづくり等) 先輩教員のホームルームを見学すること(7)

第2回センター研修 教科別研修	回答の内容
抱えている不安	授業に関すること(29) 所属校に他の初任者がいない、同じ教科の初任者が他にいないこと(2)
学びたいこと	外国語 学習指導要領について 保健体育 実技の教え方について 外国語 生徒に身に付けさせたい力や考えること 苦手な生徒も活躍できる場面を作ること 国語 単元を通して身に付けさせたい力や考えること 数学 大切にしたい要素を考えて授業目標を立てること 他の先生の意見を参考に授業を行うこと 地歴・公民 何を伝えたいのか明確にすること 生徒に育みたい力や考えること 今後実践したいこと 理科 最初に授業のゴールを提示すること その日のうちにリフレクションを行うこと 商業 新しいものにどんどんチャレンジしていくこと 他の参考となる授業づくりを実践してみること 芸術 授業で生徒の成長を促す授業力を身に付けること 他の先生の助言を自分の授業にいかすこと 保健体育 教材研究に力を入れること
第4回センター研修 教科別研修	回答の内容
抱えている不安	-
学びたいこと	外国語 学習指導要領の理解 理科 地学の実験について 国語 目標を明確にし、言語活動を効果的に取り入れること 生徒が解きたくなるような、練られた発問を考えること 数学 生徒の振り返りを自分の授業改善につなげるサイクルを回すこと 指導案の書き方や授業設計など、他の先生の実践を取り入れていくこと 授業中のワークが授業のねらいに合っているか確認すること 理科 実験の工夫(コンパクト化、個人でできる実験)をすること 実験や観察を通して生徒が主体的に思考する場面を作ること CEFRに沿い身に付けさせたい力や意識して授業をすること 各単元のゴールを定め、逆算して授業を計画すること 今後実践したいこと 外国語 学習指導要領で求められる力をしっかり理解して授業づくりをすること 保健体育 考えを言語化して整理すること 工業 デザインシートによる授業の可視化等を実践すること 指導案の見直し(タイトルや問の工夫等) 商業 生徒に身に付けさせたい力や意識して授業をつくること 農業 評価規準と評価基準に留意して指導案を作成すること 福祉 11月の教科別研修に向けて、他の先生の実践を自分の授業に生かすこと
第6回センター研修 教科別研修	回答の内容
抱えている不安等	指導案の作成方法について(2) クラスのことなど、多忙な日常であること(1) 技術的に見習いたいことが多いが、自分ができるか不安(1)
学びたいこと	外国語 4技能を1単元でどのように培うか 指導案について 保健体育 がん教育について 国語 身に付けさせたい力や評価方法などを改めて考えること 付箋を使った生徒の思考の見える化など実践すること 生徒が確かめたいと思うような問いや考える材料を整えること 生徒に何を学ぶかについて、明確にして授業づくりをすること 先輩教員の授業を見学し生徒の活動を引き出す方法を学ぶこと 地歴・公民 マトリクス分析を利用して生徒の姿容を見ていくこと ジグソー法などの授業展開の手法を自分の授業に取り入れていくこと 理科 生徒に何を学ばせ身に付けてもらいたいのか、ねらいを明確にすること 学んだ技術や、生徒の状況に応じて工夫を取り入れていくこと 今後実践したいこと 研究協議を参考に授業改善をしていくこと 単元構想を練ってから授業づくりをしていくこと 次の課題に向けて教科内で話し合ってからゴールアクティビティを決めること 保健体育 ICTやワークシートを活用すること 生徒に何を考えさせ、どうやってほしいのか、見通しを持つこと 工業 学習指導要領に沿って評価規準や授業計画を見直すこと 商業 先輩教員の授業見学を自分の授業に生かすこと 芸術 生徒のあらゆる力を軸に授業を振り返ること 水産 先輩教員の授業を見学し自分の授業に生かすこと
第7回センター研修 教科別研修	回答の内容
抱えている不安	評価や授業づくりについて課題と感じている(5) 問いや課題を設定する際の発問の仕方や言葉遣いについて 知識を得る段階と課題解決の段階の繋がりについて 学びのデザインシートについて
学びたいこと	国語 学びのデザインシートを活用して授業実践をすること 身に付けさせたい力や評価について、目標と照らして考えること 数学 他の先生の意見を聞き、授業を見学し、様々な引出しを持てるようにすること リフレクションの重要性を認識し、毎回の振り返りを大切にすること 地歴・公民 成果一問一答材料一思考対話の順にデザインシートを作成し、ゴールを意識した授業をすること 理科 授業の準備段階からPDCAを意識すること 評価を日頃の授業改善に生かす視点を持つこと 単元の活動に系統性を持たせることを意識すること 今後実践したいこと 外国語 生徒が積極的に話せるようなEssential questionを探索していくこと 生徒の実態に即したGoal Activityを考え、発問の質を高めていくこと 授業にジグソー法を取り入れること 保健体育 学びのデザインシートを活用し身に付けさせたい力や目標に授業をすること 工業 デザインシートを活用し授業の質を高めていくこと 目標を明確にしたうえで授業づくりを工夫していくこと 商業 次の課題(指導案作成)に向けて研修の学びを活かして準備をすること 農業 デザインシートを少しずつ授業に取り入れていくこと 福祉 素材から授業づくりをするなど、常に新しいことを学ぶこと 水産 思考力・判断力・表現力を身に付けさせる意識を持ち授業をすること
第8回センター研修 教科別研修	回答の内容
抱えている不安等	-
学びたいこと	国語 他の教員のリフレクションシートを自分の授業づくりに生かすこと 地歴・公民 研修で得た新たな視点を授業改善につなげること 理科 リフレクションは今後も工夫しながら継続すること 他の教員の実践を自分の授業に取り入れていくこと 今後実践したいこと 外国語 今回の研修を自分の授業の中に落とし込んでいくこと 保健体育 デザインシートを活用して生徒の対話を意識した授業展開をすること 商業 生徒が何を考えて何がわかるようになるのか明確にして授業をつくること 農業 研究授業のみならず普段の授業でデザインシートを活用すること 家庭 自分自身は家庭科のプロであるというプライドをもって取り組むこと 芸術 新学習指導要領をしっかり理解して令和4年に備えること

別表 4 その他の研修年間計画シート

氏名		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		時間	研修内容	具体例	時間	研修内容	具体例	時間	研修内容	具体例	時間	研修内容	具体例	時間	研修内容	具体例	時間	研修内容	具体例	時間	研修内容	具体例	時間	研修内容
年間行事予定																								
資質能力																								
教育的素養																								
総合的人間力																								
授業力																								
生徒指導力																								
教育業務遂行力																								
組織運営力																								
授業力計		0	(月10時間以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月合計		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年間累計		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
センター研修		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>★ → 振込用の クベニング</p> </div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <p>第2回 ★ 授業の基礎技術 授業改善 教科別研</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: right;"> <p>第2回</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <p>第3回 ★ 部活動指導 教習相談 特別支援教育 生徒指導 生徒指導 における課題解決</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: right;"> <p>第3回</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <p>第4回 ★ キャリア教育 特別活動 教科別研修</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: right;"> <p>第4回</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <p>第5回 ★ ホームルーム経営</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: right;"> <p>第5回</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <p>第6回 ★ 教科別研修</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: right;"> <p>第6回</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <p>第7回 ★ 教科別研修</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: right;"> <p>第7回</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <p>第8回 ★ 教科別研修</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: right;"> <p>第8回</p> </div> </div>																						
センター研修 の振り返り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後実践 したいこと</li> <li>・自分に足り ないこと</li> <li>・学びたいこと</li> </ul>																						

